特別支援教育の扉 №１９８　　令和８年９月10日発行

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷　勝

「名もなき家事」

掃除や洗濯、料理といった「名前のある家事」以外で、例えば、「脱ぎっぱなしの服をクローゼットにしまう」「丸まった靴下をひっくり返す」「子どもの学校の提出書類を確認する」など、細々とした家事のことを「名もなき家事」と呼んでいます。



１　「名もなき家事」をシェアするポイント

（１）お願いするときは具体的に伝える

「洗濯物を干すときはシワを伸ばして」「ゴミ出しをしたら、新しいゴミ袋をセットして」などと分かりやすく伝える。（家事の漏れが減る）

（２）小さなことでもほめる

「テーブル拭いてくれて、ありがとう」「洗濯物、頼んだ通りにたたんでくれて助かる」などと積極的にほめる。（ほめられるとやる気になる）

（３）情報を共有する

家族のSNSグループで「洗濯機回しておいたよ」「洗剤がなくなりそう」といった小さなことを共有したり、リビングや廊下に掲示板を置いたりする。（お互いへの配慮や感謝の気持ちが伝わる）

（４）感謝の気持ちを言葉で伝える

「ありがとう」と言葉にして伝えると、お互いが気持ちよくなるだけでなく、それを聞いた他の家族も、誰かがやってくれたことに気が付き、今度は自分がやってみようと考えるようになる。（感謝の言葉が増えると、家族のよい関係性にもつながる）

参考：大和ハウス工業株式会社　多田綾子さん（名もなき家事の名付け親）

学校現場にも「名前のある教育活動」だけでなく、「名前のつかない教育活動」が無数にあります。欠席連絡のない家庭に電話を入れる、家庭からの提出物に不備があったときに付箋を付けて再度持ち帰ってもらう、ガタついている子どもの机や椅子の高さを調整する、コピー機の用紙を入れ替える、シュレッダーからあふれた紙くずをほうきで集める、体育館にあるピアノを協力して移動するなどが考えられます。

「名前のつかない教育活動」は、その都度気付いた人が積極的に動いて成り立っています。「名前のつかない教育活動」をリスト化することで、役割が明確になってスムーズに学校が回ると思います。しかし、全て可視化することは難しいです。「名もなき家事」をシェアするポイントにあるように、校内で小さな情報を共有するとともに、お互いへの配慮や感謝の気持ちが伝わる良質な組織風土を形成することが大切となります。

参考：「教師の流儀２」より　著者　川上康則





とれたて直送便



【名言・名句】

「よい教師は子どもと共に笑い、よくない教師は子どもを笑う教師である」（イギリスの教育者アレクサンダー・ニイルの言葉）。子どもは未熟である。教育はそうした未熟な子どもの人間形成のためにある。未熟な者を軽く見たり、ばかにしたり、侮ったりしたのでは、決してよい教育効果は得られない。子どもと同じ視線で物を見て、考え、成長していく教師であり続けたい。